

監修：松原達哉（立正大学教授）

「ビジュアル臨床心理学入門」は、臨床心理学の基礎的な理論や知識を深め、その理解を容易にするためのビデオ教材。臨床心理学の概念、具体的な技法や実践方法などを映像で分かりやすく紹介・解説することを通して、私たちの心に迫る映像作品です。

VHS・DVD 各約25分
各巻 63,000円(税抜60,000円)

① 臨床心理学とは何か ● 指導：松原達哉（立正大学教授）

人間は誰もが心の悩みをもって生きています。臨床心理学はそうした心の動き、迷いや悩みを理解し、それをどのように解消して生活していくのか、理論や技法を研究するものです。こうした「心の専門家」の学習内容、働く場所、領域などについての概要を紹介します。

② 心理アセスメントとはなにか ● 指導：松原達哉（立正大学教授）

心の問題を抱える人に対して、相談内容や原因、経過、現状などを診断・測定し、どのような理論や技法を用いてカウンセリングするかを決めることを「心理アセスメント」といいます。知能検査、発達検査、人格検査、適性検査などの診断法や活用法などを解説します。

③ 異常心理学 ● 指導：西松能子（立正大学助教授）

異常心理学とは、精神障害とされる心的現象について、共通の概念形成をし、一定の法則を見つけ出そうとする科学です。了解心理学的立場、力動心理学的立場、人間学的立場から考え、精神障害をもったクライアントの心をどのように理解するかを考察します。代表的な異常心理として、統合失調症と躁うつ病を取り上げます。

④ 人生の危機への介入法 ● 指導：西松能子（立正大学助教授）

人生の危機には、内的な危機と外的な危機があります。内的危機は人生の節目で生じ、精神障害の発症率が上がります。また、心的外傷を蒙るような外的危機によって、心的外傷後ストレス障害に罹患することがあります。内的及び外的な危機について事例を交えて解説し、求められるカウンセリングの技法を解説します。

⑤ 発達障害へのアプローチ ● 指導：下司昌一（明治学院大学教授）

LDやAD/HDなどの軽度発達障害が注目されるようになりました。軽度発達障害の人たちは、周囲の理解が得られず、家庭や学校、地域社会において生きにくさを感じています。軽度発達障害児を中心として、発達障害全般に対する理解を深め、発達障害児の現状と適切な支援について解説します。

⑥ フロイトとユングの心理学 ● 指導：諸富祥彦（明治大学助教授）

精神分析の創始者フロイト、分析心理学の創始者ユング。心の問題を解明し、人を援助する学問である臨床心理学における二人の理論と方法を理解することは、重要なことです。独自の臨床的方法を開発したフロイトとユングの各々の理論と治療法を詳しく解説します。

⑦ 来談者中心療法 ● 指導：諸富祥彦（明治大学助教授）

来談者中心療法は、カウンセリングの最もベーシックな方法の一つです。開発者のロジャーズはカウンセリング界の神様の存在。彼が重んじたのは、受容、共感、純粋性と呼ばれる、ふれあいのある人間関係です。来談者中心療法、フォーカシングの実際についてデモンストレーションを呈示しながら具体的に解説します。

⑧ 行動論的アプローチ ● 指導：山口正二（東京電機大学教授）

不登校や無気力、強迫神経症の治療に有効とされている行動論的アプローチ。心の問題によっておこる症状や不適切な思考や行動を、好ましい適切な反応に変化させるために行われる治療法です。その基礎は条件反射です。生活分析的カウンセリング、系統的脱感作法、シェーピングについて解説します。

⑨ 表現療法へのアプローチ ● 指導：杉浦京子（日本医科大学助教授）

表現へのアプローチは、内に秘めた心の悩みを、言葉以外の方法で表現することや体を動かすことで治療しようとするものです。代表的なものとして、ドーラ・カルプが考案した箱庭療法があります。箱庭療法をはじめ遊戯療法、コラージュ療法を実際の症例を交えて、その理論と効果について解説します。

⑩ 集団へのアプローチ ● 指導：河村茂雄（都留文科大学教授）

人が自らの存在を実感するということは、集団の中で行われます。集団へのアプローチは、心の悩みを集団の中で治療していこうとするものです。代表的なものに、構成的エンカウンターグループの他に、サイコドラマやセルフ・ヘルプ・グループについても解説します。

⑪ 無気力からの脱出 ● 指導：松原達哉（立正大学教授）

無気力とは、積極的に物事をしようとする意欲のない状態をいいます。心理的原因、環境的原因、うつ病など病的原因があります。脱出方法としては、来談者中心療法、KJ法、生活分析的カウンセリング法（LAC法）などがあります。学生相談の現場から発案されたLAC法の理論と実践を中心に紹介します。

⑫ 児童虐待の現状とケア ● 指導：松原達哉（立正大学教授）

虐待増加の背景には、核家族化などによる孤立した家族の増加、子育てに関する知識や心構えの欠如、夫婦不和、離婚などによる育児不安など、諸原因が複雑に絡み合っています。虐待の原因や実態及び児童への影響、虐待を行なう大人への社会的なサポートを紹介し、臨床心理士の役割を解説します。

⑬ ストレスとうつ病 ● 指導：島 悟（東京経済大学教授）

うつ病は、過剰なストレスが原因とされています。その要因として、心理的要因、環境的要因、身体的要因、性格的要因があります。これらの要因が、単独あるいは重なり合い、憂鬱になったり、肩こり、不眠などの症状を引き起こします。ストレス・うつ病の概念とその治療法や臨床心理士の関わり方を解説します。

⑭ 心的外傷（トラウマ） ● 指導：島 悟（東京経済大学教授）

心的外傷という考え方を心理学の世界に導入したのはフロイトです。日本で注目されたのは、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件以降です。命に危険を及ぼす程の自然災害や犯罪に遭った際の心的外傷を外傷後ストレス障害（PTSD）といいます。心的外傷の概念、PTSDとは何か、治療のための社会的なケアについて解説します。

⑮ ひきこもり・ニートの心理 ● 指導：嶋田洋徳（早稲田大学助教授）

“ニート”や“ひきこもり”が社会問題化しています。各々固有の問題が社会のあり方と密接に絡み合う形で存在しています。特にひきこもりは、コミュニケーションの欠如が障壁となり、特有の悪循環構造に陥っています。ニートやひきこもりの心理に迫り、支援方法を提示し、親の会、当事者の生の声も交えながら解説します。

⑯ 自律訓練法 ● 指導：笠井 仁（筑波大学助教授）

ストレスによる緊張と不安を緩和し、心と体をリラックスさせる代表的な方法が自律訓練法。神経科医であったシュルツが創案し、「催眠」と「暗示」の力を応用した訓練法です。自律訓練法の練習を再現しながら、ポイントを詳しく紹介。実践家の声も紹介しながら、その理論と実際を解説します。

⑰ 認知行動療法 ● 指導：沢宮容子（立正大学助教授）

認知行動療法では、クライアントの外から観察できる「行動」だけでなく、内なる「認知」過程も治療の標的とし、これらの変容へ向けた援助を行います。エビデンス・ベースト・セラピーの一つとして近年注目を集めています。認知行動療法の基礎理論を示し、事例を交えながら、認知行動療法の実際について解説します。

⑱ キャリアカウンセリング ● 指導：宮城まり子（立正大学助教授）

労働環境が大きく変化し、厳しさを増す中、多くの人々が自分の働き方・生き方に大きな不安を抱えています。キャリアカウンセリングは人々の自立をサポート。スーパー、ホランドなどの代表的なキャリア理論を紹介し、キャリアカウンセリングの具体的なアプローチ方法を解説します。

⑲ 家族療法 ● 指導：平木典子（跡見学園女子大学教授）

家族療法は、米国で生まれた家族を対象とした心理療法です。個人の症状や問題は、対人関係の問題であると考え、症状や問題を持った人をIPと呼びます。家族療法の概略と核家族が集まった家族療法のロールプレイによって、家族療法の進め方を具体的に解説します。

⑳ 日本で生まれた心理療法 ● 指導：中村 敬（東京慈恵会医科大学助教授）

日本で生まれた心理療法の代表的なものが、内観療法と森田療法です。ともに東洋的な考えを重視した心理療法です。内観療法の概略と進め方、特徴を紹介し、森田療法の理論と具体的な治療手順を体験者のインタビューなどを交えながら紹介・解説します。